

令和4年

# 5・6月ころばん体操出前講座

## I. 講話 「 知って安心 訪問看護サービス 」 訪問看護ステーションさくら 所長 畑中 勇二

どんな状態の人も自宅で暮らしたいと思えば家で過ごせる手段があります。国も、医療費や介護費の出費を抑える為に在宅医療の体制づくりをすすめています。訪問看護は、医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたい人のご希望に沿って24時間365日必要に応じて駆けつけます。自宅に訪問して健康状態のチェックやリハビリや入浴の介護、認知症の方の精神的な援助、お薬が管理できない人の援助を行っています。ご家族で看取るためのサポートをして、ご家族だけで見守りながら亡くられるケースが多いです。癌の患者さんは最後まで痛みを訴えるイメージがありますが、薬も開発されて痛みをかなり緩和して自宅で過ごすことが楽になっています。在宅医療は病気と闘うのではなく病気のその人に寄り添い、見守る医療です。

訪問看護は、～安心、お守り、訪問看護～と覚えてください。自宅という特別個室にいて必要な時に看護師さんが駆けつけるというイメージで訪問看護を知っていただきたいと思います。

須賀公民館 令和4年5月12日（木）10:00～11:30 参加者 計13名(女性13名)



- ・「病気になっても、最期の時まで自宅で暮らして行きたい」（9割の方が挙手されました）
- ・「介護をした頃は制度もなくおむつも布だった、自分でお風呂にも入れて大変だった」
- ・「でも、これは理想ですよね・・・この地域はほとんど女性しか残ってなくて独居になる、介護してくれる人もいないし、自分は最期まで家で暮らしたいと思っていても、子供達になかなか言えない、そんな場合はどうしたらいいですか・・・」
- ・私たちは介護してもらって側だから、介護していく子供達や、若い人たちに今のような話をしてほしいです。
- ・本人より、介護する側の立場で決定されていく現実がある、「こんなことなら子供はいなくてよかった」と以前に言っていた人もいました。

働く婦人の家(フレッシュ体操)令和4年5月27日(金)10:00～11:00 参加者 計12名(女性12名)

- ・「病気になっても、最期の時まで自宅で暮らして行きたい」（9割の方が挙手されました）
- ・「ピンピンコロリ」で亡くなりたいたいですか？・・・（全員が元気に挙手されました。）
- ・家族が口から食べられなくなったので胃瘻をしましょうと言われたが断った。点滴を進められたら断ればいいですか・・・？
- ・母親をがんで看取った、先生が点滴をしましょうと言われたときに母が自ら断ってしなかった・・・今日話を聴いて母の選択はあれでよかったのかなと意味が分かった。
- ・今日はとても参考になる話を聴いてよかった。自分たちも、もう迫ってきている年齢だから...



島平上公民館 令和4年6月23日（水）13:30～15:00 参加者 計27名（男性8名・女性19名）



- ・「病気になってもお家で暮らしていきたいですか」の問いに・・・二人ほど挙手
- ・ほとんどの人が「病院がいいよ」「病院が安心だし、家族に迷惑がかからないし」
- ・死ぬときも病院がいいです。」「家で死ぬと警察が来たり色々面倒だと思う」
- ・「こころはみんな年寄りばかりだからどうしようもできない」
- ・「家にいたいけど相手がいないから面倒も見てもらえない、子供にも頼れないからね」
- ・一人で家で死んでいたら、子供たちが後で悲しむし病院の方がいいよ
- ・子供達は自分たちに迷惑をかけないでほしいって思っているのよ・・・
- ・自分のことが自分で出来なくなったら、やっぱり病院や施設がいいのよ・・・
- ・二人自宅で看ましたが自分の精神状態がギリギリでした。連休とかあると休診になり本当に不安でした。だから見てくれる人の負担を思うと気の毒です。